

第8回「駅ホームにおける安全性向上のための検討会」議事概要

日時：平成30年12月21日（金）15：00～17：00

場所：合同庁舎第3号館10階共用会議室（東京都千代田区霞が関2-1-3）

出席者：別紙

1. 議事概要

- 国土交通省より、中間とりまとめのフォローアップとして、駅ホームからの転落対策におけるハード面の取組（ホームドア・内方線付き点状ブロックなどの整備等）及びソフト面の取組（駅員研修、声かけ・見守りキャンペーンなどの実施状況等）について議事次第に沿って説明した。
- 国土交通省より、新型ホームドアに関する技術WG、駅ホーム縁端部視認性向上のためのWGについて、活動状況を報告した。
- 国土交通省より、駅ホームにおける転落事故件数の推移、視覚障害者転落事案の傾向と分析について、報告した。
- 埼玉県、大阪府及び西日本旅客鉄道（株）より、良好事例の水平展開として各種取組内容について報告した。
- 上記の説明・報告を受けて意見交換がなされたところ、委員から出された主な意見は以下のとおり。
 - ・頭端駅における固定柵の整備は転落防止対策として非常に有効であり、列車停止位置を考慮して、固定柵と車両先頭の隙間が小さくなるよう整備してもらいたい。
 - ・駅員等による視覚障害者の誘導案内において、ホームと列車の隙間に足を踏み外す事案が発生しており、案内方法の統一や、希望者にはホームと車両の渡り板（車イス利用者の案内で使われているもの）の利用を検討してもらいたい。
 - ・新型ホームドアの実用化にあたっては、白杖使用者による単独歩行や盲導犬使用者など、様々なケースでの有効性や危険性について、検証していただきたい。
 - ・ホーム縁端部の視認性向上策（色帯・縞模様）は、是非とも整備を進めてもらいたい。ただし、弱視者の見え方は千差万別で、色帯と点状ブロック等を誤認しないと言い切れないため、色帯に加えて内方線付点状ブロックの整備も、しっかり進めていただきたい。
 - ・転落事案の分析は、視覚障害者が気を付けるべきポイントが明らかとなり、訓練においても大変有益であることから、取組に感謝している。
 - ・ホーム構造によって危険度が異なると認識しているため、転落事案の分析は、ホームの構造形式に着目して行うのも1つの方法である。
 - ・新型ホームドアやホーム縁端部の視認性向上策には複数案あり、目的を果たすためにいろいろな方式があることは致し方ないが、同じ機能のものは原則1つの方式に統一することが望ましい。
 - ・島式ホームにおけるホーム中央部を歩行するような仕組みや転落防止対策としての ICT を活用したホーム縁端部での注意喚起も有効ではないか。
 - ・調査の段階から当事者を交えて行うインクルーシブリサーチが、鉄道事業者ではやや不足していると感じるため、強化していくべきである。

2. 以上の意見交換を踏まえ、引き続き今回の計画を着実に推進させるとともに、本日のご意見やご要望については、今後参考としていくこととなった。